

県産銘柄肉用鶏の原々種・原種系統の性能の推移と改良方向

[要約] 平成14年度時点のはかた一番どり用横斑プリマスロック系とはかた地どり用シャモ系の120日平均体重は各2.87kg、2.89kgで両者とも増加方向にある。いずれも雄雌の体重差を縮小する方向に選抜圧を変更する必要がある。横斑プリマスロックはさらに体重増加の必要があるが、はかた地どりは体重過剰の傾向があるため、シャモは現在の平均体重を維持する。

担当部署	家畜部・家きんチーム			連絡先	092-925-5232
対象作目	肉用鶏	専門項目	育種繁殖	成果分類	品種育成

[背景・ねらい]

県産銘柄肉用鶏はかた一番どりととはかた地どりは併せて年間65万羽の生産量に達し、なお増産の方向にある。このため、当场保有のはかた一番どり原々種用横斑プリマスロック（以下BP）とはかた地どり原種用シャモ（以下シャモ）は今後も継代育種し、より望ましい性能へ改良を続ける必要がある。

そこで、上記2系統の14年度までの性能の推移と傾向を取りまとめ、今後の改良と維持の方向を明確化する。

[成果の内容・特徴]

1. BPの8～14年度の120日齢体重の改良量は雄1.02kg、雌0.54kgであり、雄雌の差が拡大している。これを縮小するため、今後は雄の選抜圧を弱め、雌の選抜圧を高める必要がある（図1）。農家におけるはかた一番どりの63日齢推定体重は2.7kgであり、食鶏の適正体重としてやや不足であるため、BPは平均体重の増加方向への改良を続ける必要がある（表2）。
2. シャモの120日体重における7～14年度の改良量は雄0.36kg、雌0.32kgで、BPほど雄雌の改良量に差はない。しかし14年度120日齢の雄雌体重差はBPの0.8kgに比べて0.93kgと大きいので、BP同様に雌の選抜圧強化が必要である（図2）。ただし、はかた地どりの14年度出荷体重は3.2kg、84日齢推定で3.1kgを越え、食鶏の適正体重を越えつつある。はかた地どりは特定JAS規格のため80日以上飼育する必要があるため、シャモの平均体重は現状を維持する（表2）。
3. BPの孵化率は11年度以降低下し、12～15年度は40%前後で推移している。シャモの孵化率も平成8年度以降は40%前後である。40%前後が近交の進んだ閉鎖群の加温処理後孵化率の平均的な値と考えられ、これを種鶏ひな採取時の目安とする（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 今後のBP、シャモの改良・維持と、種鶏の供給のための資料として活用できる。
2. はかた地どりの農家成績は既にマニュアル値を上回っているため、マニュアルの改訂を図る必要がある。

[ 具体的データ ]

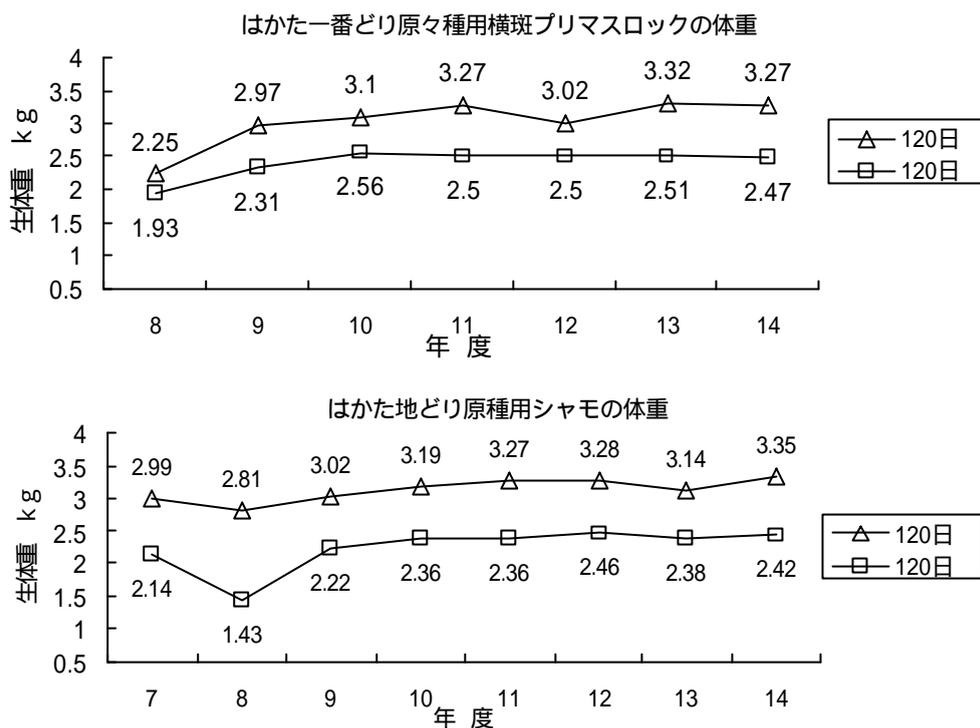


図1 B P系統およびシャモ系統の120日齢体重の推移

表1 B P系統およびシャモ系統の孵化成績(加温処理後、対入卵%)

系統	8	9	10	11	12	13	14	15年
B P	60.7	77.3	87.2	63.6	36.7	44.4	40.4	42.0
シャモ	31.5	40.2	46.8	44.1	42.1	30.3	43.3	39.4

表2 はかた一番どりおよびはかた地どりの農家育成成績(14年度平均値)

鶏種	育成期間 日	出荷生体重 kg	育成率 %	飼料要求率	1日当たり 増体重 g/日
はかた一番どり (63日齢補正值) (11年度マニュアル値)	67.8	2.91	97.7	2.44	43.0
	(63)	2.71	-	2.27	43.0
	63	2.77	-	2.46	43.9
はかた地どり (84日齢補正值) (11年度マニュアル値)	85.5	3.19	97.9	2.68	37.3
	(84)	3.13	-	2.64	37.3
	91	3.22	-	2.99	35.4

注) 補正值はいずれも出荷日の成績から直線回帰式で推定した

[ その他 ]

研究課題名：地域特産用鶏の新系統育成  
 予算区分：経常  
 研究期間：平成14年度(平成5～継続)  
 研究担当者：西尾祐介、福原絵里子、上田修二  
 発表論文等：平成7～13年度畜産関係試験成績書